

各大学現況一覧表

	北海道大学	千葉大学	東京大学	東京学芸大学	名古屋大学	九州大学
使用ハードウェア	Apple iBOOK (ハードディスク容量 30GB)	Dell PowerEdge 600SC (ハードディスク容量 80GB)	DELL PowerEdge 2300 (ハードディスク容量 9GB)	FMV-6000NU/L (ハードディスク容量 20GB)	Dell PowerEdge1600SC (仮) (ハードディスク容量 36GB)	富士通製 7000S Model45 (ハードディスク容量20 GB)
使用ソフトウェア	DSpace 1.2	独自開発システム (CMS社) ・採録誌情報の拡張定義を行う (QualifierにbibliographicCitationを採用予定) ・登録インタフェース (簡易一括) 検索インタフェース開発 DSpace1.1.1 ・実験機として運用し、現行システム改善に役立てる。 ・学内LAN接続済み。固定IP、ドメイン取得予定。 ・1.1.2にバージョンアップ予定	FedoraCore 1.Apache 2.0.47、Mod_perl 1.99、MySQL 3.23、Eprints 2.3.3	DSpace 1.1.1 (同機種別マシンに1.2をインストール予定)	DSpace 1.1.1(ハンドルサーバーを導入することを検討中)	DSpace 1.1.1
URL	http://chiri.lib.hokudai.ac.jp:8000/dspace2/index.jsp	ホームページ: http://mitizane.ll.chiba-u.jp/information/ BaseURL: http://mitizane.ll.chiba-u.jp/cgi-bin/oai/oai2.0	http://eptest01.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/ (DNSには未登録)	http://157.105.48.130:8080/dspace/index.jsp (現在、学内のみ)	http://cherry.itc.nagoya-u.ac.jp:8070/dspace/ (仮)	http://ovid.lib.kyushu-u.ac.jp:8080/dspace
試行運用開始時期	検討中	プロトタイプ版試行入力 平成15年度～	未知の点が残っていること(バーチャル・ホストによる複数アーカイブの運用、検索時動作の確認等)、また現在のシステム構成はあくまで我々がeprintsに関するノウハウを蓄積するための実験用であるため、10月以降になると思われます。	今秋可能の予定。	2005年2月程度を予定	9月15日予定
日本語対応	対応中 (DSpace 1.1ではほぼ完了)	対応している 文字セットはUTF-8	画面についてはほぼ完了。部分的ですが完全一致検索可能	2バイト文字の日本語単語検索対応済み。画面は対応中。	画面とメタデータ部分の検索を日本語対応	画面日本語化完了、検索可能
OAI-PMH対応	oai_dc形式で可能	対応している (oai_dc、ju_nii に対応)	ある程度のjunii対応は出来ているつもりです。	oai_dc形式で可能。(DSpaceデフォルト)	oai_dc形式、junii形式	oai_dc形式で可能
MH可能時期 (Base URL, metadataPrefix)	検討中	すでに可能	実験レベルとしてのMHについてはNII殿と打合せで、9月中に開始したい。	試行運用開始後、設定完了次第となる。年内可能の予定。 juniiは対応確認済み。 (http://dspace.u-gakugei.ac.jp:8080/dspace-oai/oai_dc)	2005年2月程度を予定 http://cherry.itc.nagoya-u.ac.jp:8070/oai/	10月1日頃 (http://ovid.lib.kyushu-u.ac.jp:8080/dspace-oai_oai_dc)
収載コンテンツ主として注力搭載可能とする検討中 × 対象外	() 商業誌掲載論文 (ポストプリント) () 商業誌掲載論文 (プレプリント) () 国内学会誌掲載論文 (ポストプリント) () 国内学会誌掲載論文 (プレプリント) () 学会発表資料 () 科研報告書 () 紀要論文 () 学位論文 () その他 (研究資料、教育資料、非文書情報) () 制限せず	() 商業誌掲載論文 (ポストプリント) () 商業誌掲載論文 (プレプリント) () 国内学会誌掲載論文 (ポストプリント) () 国内学会誌掲載論文 (プレプリント) () 学会発表資料 () 科研報告書 () 紀要論文 () 学位論文 () その他 () () 制限せず	() 商業誌掲載論文 (ポストプリント) () 商業誌掲載論文 (プレプリント) () 国内学会誌掲載論文 (ポストプリント) () 国内学会誌掲載論文 (プレプリント) () 学会発表資料 () 科研報告書 () 紀要論文 () 学位論文 (×) その他 (特許情報は扱わないつもり) () 制限せず	() 商業誌掲載論文 (ポストプリント) () 商業誌掲載論文 (プレプリント) () 国内学会誌掲載論文 (ポストプリント) () 国内学会誌掲載論文 (プレプリント) () 学会発表資料 () 科研報告書 () 紀要論文 () 学位論文 () その他 () () 制限せず	() 商業誌掲載論文 (ポストプリント) () 商業誌掲載論文 (プレプリント) () 国内学会誌掲載論文 (ポストプリント) () 国内学会誌掲載論文 (プレプリント) () 学会発表資料 (×) 科研報告書 () 紀要論文 () 学位論文 () その他 () () 制限せず	() 商業誌掲載論文 (ポストプリント) () 商業誌掲載論文 (プレプリント) () 国内学会誌掲載論文 (ポストプリント) () 国内学会誌掲載論文 (プレプリント) () 学会発表資料 () 科研報告書 () 紀要論文 () 学位論文 () その他 (講義資料、電子教材類) () 制限せず
登録者の範囲	検討中	(1) 本学に在籍する、または在籍したことのある教職員及び大学院生 (2) その他館長が特に認められた者	学内教官(助手以上)で協力してくれる方は誰でも・・・と考えています。試行運用では少なくとも情報基盤センター教官、情報システム室員の教官に協力依頼する予定。	試行対象は『東京学芸大学紀要』に掲載された論文等で、著者が「インターネット公開」許諾済みのもの。(許諾は2003年以降)	名大構成員(院生 or 教員)を予定	本学在席の(過去に籍も含む)教員及び研究者の研究成果物。
数値目標等(あれば)		(1) NIIによる電子化紀要等の初期登録データ500件程度(千葉大学経済研究、千葉大学看護学部紀要、言語文化論叢) (2) セルフアーカイブ可能な大手EJに近年掲載された論文 500件程度(Elsevier、Blackwell、Kluwer、Nature、AMS、APS)	未定	試行対象は、数十件	紀要情報照会システムに登録してあるもの(700件程度)を継承することを当面の目標としている	
権利処理について (IR/研究者)	検討中	初回コンテンツ登録前に、登録者から図書館宛宛に書面で著作物利用許諾文を提出	未定	試行対象の『東京学芸大学紀要』収載対象論文については、著者の「インターネット公開」許諾あり	紀要情報照会システムへの登録時に用いた事務手続を叩き台に、原案を作成中	未定
権利処理について (研究者/学術雑誌)	検討中	研究者・出版社・学会間交渉の仲立ち・代理: 学術雑誌の出版社の著作権ポリシー(特に、掲載論文のセルフ・アーカイビングを許すか否か)に関する情報を図書館が研究者に積極的に提供する。	同上	試行対象の『東京学芸大学紀要』については、著者に著作権あり	検討中	未定
館内合意、学内合意等の状況	館内WGにて事前調査を行い、現在報告書(案)の作成中。報告書作成後館内合意及び学内合意に向けて検討を行う。	館内合意: 運営委員会において事業実施の了解済(平成15年度) 学内合意: 正式には取れていない。	情報担当理事(副学兼図書館長)の下の「情報システム室」委員の議論でも、研究室・教官情報と論文PDF等の研究成果の発信とを切り分けるべき、との意見があるそうです。よって「情報システム室」で了解されれば、本学の方針としてリポジトリへの投稿推進を打ち出すことが可能と思います。	今年度は図書館側で試行対象の入力を行うにとどまる見通し	合意形成の趣旨や手順について原案を作成中	研究開発室の先生に紹介。「現代的教育ニーズプロジェクト」の申請を通じて学内合意形成を図った。
図書館は何を行うか	検討中	1. 学内プロモーション(コンテンツ登録促進) ・図書館員による登録支援 ・学術雑誌のセルフ・アーカイビングについての情報提供 2. 維持管理 ・データ管理(メタデータ充実、一次データのバックアップ等) ・システムメンテナンス ・一次データ(コンテンツ)の長期保存 ・運営指針の策定	管理職級: 東大の政策としてリポジトリへの投稿が行われるよう、情報担当理事、およびその下の情報システム室への働きかけ(特に「試行運用」に限定せず)、一般職員の方々: 意義を理解していただいた上で自部局教官への宣伝、働きかけなど。 情報基盤センター: メタデータチェック・補完(査読まで我々で可能かどうか?)	今年度は図書館側で試行対象の入力を行う	図書館がリポジトリを主体的に管理する方向で検討中	メタデータの作成
コンテンツ収集(増加)の方策	未検討	1. 簡便な登録インターフェイスの提供 2. 図書館員による登録支援登録代行 ・登録の代行(柔軟に対応) ・セルフ・アーカイブ可能な論文を図書館が登録代行 ・セルフ・アーカイブ可能な論文の提示 3. リポジトリ登録のメリット強調 ・例えば、投稿論文へのアクセス数通知による登録喚起 4. 学内で構築計画が進んでいる「教員業績等データベース」との連携 年内に正式にスタートさせたい。 運用指針原案、ユーザインタフェース等は準備済み。	「試行運用システム」の段階では特に考えていません。 eprintsについて言えば、東大全学規模で運用するに耐えうるかを評価、あるいはこちらとしては詳細が不明なDSpace、その他類似のシステムの評価も行わなければ、引き続きeprintsで本格運用に入るかどうか述べることはできません。 しかしながら、機関リポジトリの構築を政策的事項として承認していただくための働きかけを進め、状況によってはeprintsで暫定運用もあり得えます。	次年度検討予定	未定	研究開発室、館内合意、現代的教育ニーズプロジェクトを通じて学内合意を進めていく予定。
本プロジェクト終了後の(本格運用など)見通し	「メタデータの収集とポータル機能の実装」という外部評価への指摘に対応する事業として、引き続き学内の合意及び関係機関との連携を図り、本格運用を目指す。			・学術機関レポジトリの本格運用には、DSpaceのみならず市販パッケージを含めたソフトウェアやシステムの比較検討が必要と思われる。運用コストやサポートの受けやすさ等も重要になる。 ・今後の入力対象コンテンツについては、本学の特色を活かした教育実践データやデジタル教材に重点を置く構想がある。いずれにせよ、図書館側で一定の質・量のデータを入力してから、研究者の入力を募るのが現実的と考える。 ・コンテンツ増加策や著作権の扱いについては、今年度の試行を受けて検討することになる見通し。	来年度後半の本運用を目標としている	現在申請中(結果は9月下旬)の「現代的教育ニーズプロジェクト」で情報基盤センターと協同で医学系の講義資料、電子教材類を収集する予定。